

# 教学 I R 特論 (二瓶智太郎)

Advanced Course of Institutional Research ( I R ) (Tomotaro Nihei )

## キーワード

- ① 教学institutional research ( I R )
- ② 実務調査
- ③ 機能評価
- ④ 学生の実態
- ⑤ 教育改善

## 授業概要

教学institutional research ( I R ) 特論は、高等教育の充実化において重要な役割を担う教学 I R の役割や業務対象などに関する基本的な知識を修得することを目的として開講する。授業は講義形式と演習形式授業の組合せにより実施し、教学 I R の定義や目的、役割や業務対象などに関する基本的な知識を講義によって学修する。その後、教学 I R の実務について、他大学の教学 I R 状況に対する実態調査を行うことにより理解を深め、さらに学修した内容を基盤として本学における実務調査や機能評価に参画することにより体験的な学修を行う。

## 授業科目の学修目標

教学 I R の定義や目的、役割や業務対象などに関する基本的な知識を修得する。また他大学の教学 I R の現状にに対する実態調査を行うことができる。さらに学修した内容を基盤とし、本学における実務調査や機能評価に参画することができる。

## 授業計画

- ① 講義にて教学 I R の定義や目的、役割や業務対象などに関する基本的な知識を修得する。  
10コマ 二瓶智太郎
- ② フィールド調査として、他大学の教学 I R 状況に対する実態調査を行い、調査の内容を統括する。  
10コマ 二瓶智太郎
- ③ 本学における実務調査や機能評価に参画し、PDCAに準じて各種改善に関する報告書を作成するための授業を実施する。 10コマ 二瓶智太郎

## 教科書および参考書

大学のIR Q & A 中井俊樹ら編 (玉川大学出版)

## 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

授業の前に大学のIR Q & A を熟読し、記述された内容について事前に理解しておくこと。

## 大学院生が達成すべき行動目標

- ① 教学IRの基本概念について説明することができる。
- ② フィールド調査を通じてIRの技法を身に付け、応用することができる。
- ③ 実際の実務調査や機能評価に参画し、PDCAに準じて改善計画書を作成することができる。

## 評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%	0%

## 評価の要点

授業内容に関する知識領域の内容については試験にて評価する。  
フィールド調査に関する能力についてはポートフォリオにて評価する。  
実務調査や機能評価に関する能力については改善計画書 (レポート) にて評価する。

## 理想的な達成レベルの目安

70%の達成レベルを必要とする。